日本歯科医史学会々誌・第3巻
第1号通巻9号・昭和50年5月

日本における婦人歯科医の誕生

——高橋コウ女史をめぐって——

今　田　見　信*

はじめに

明治27（1894）年5月高橋コウ（通常は孝子とも書いた）が23才で，医術開業歯科試験に合格して今年は丁度80年になる．

また，高橋コウが昭和15（1940）年4月2日午後11時20分に69才で頸部腫瘍のために逝去して満35年，奇しきめぐり合せの4月の例月で，高橋コウ女史の話しをする機会を得たことは光栄である．私達は去る4月2日の命日に福寿院へ墓まいりしたことを申添えたい．

思い起すと，逝去の当日の朝，実弟の高橋虎一から下記の速達をもらった．

拝啓　時下向春の砌高堂愈々御清昌の段欣賀候　陳者姉孝子儀本年1月以降頸部腫瘍の為引籠り勝の処最近稍重態の気味にて休養罷在候

当人多年御厚誼賜り且日歯界紙上特に絶へず御眷顧御支持を辱ふし常に御厚配を感謝申し暮し居候次第につき小生として生前是非拝眉の栄を得させ御挨拶申上させ度希望仕候　公私御多用中御迷惑とは存じ候へ共近き内御繰合せ御来訪を蒙り度　乍失礼紙上にて右願用迄如此御座候　敬具

4月2日　　高橋虎一

今田見信様　侍史

そこで私は午前中の診療を終って日本橋区室町3-1の高橋歯科医院を訪れた．病床に臥しておられたコウ女史は割合に元気で，“永々御世話になりました”とか“弟虎一も日頃お引立下さいましてありがたい”とか“今後もよろしく”とかはっきりした言葉で礼を述べられた．

昭和13.2.26写（高橋虎一から頂く）

まさか，その晩逝去されるような状態ではなかったのに，その晩の11時20分に永眠されたのであった．逝去のことは4月6日に受取った下記のハガキで知った．

姉　孝子儀病気療養中の処4月2日午後11時20分永眠仕候間此段御通知申上候

追而来る7日午後2時より京橋区木挽町4丁目2番地聖ポウロ教会に於て告別式執行可仕候

昭和15年4月5日

日本橋区室町3丁目1番地

弟　高橋虎一

私も定刻に駆けつけて会葬した．教会いっぱいの人達で埋っていた．

故人にふさわしい厳粛にして盛大な葬儀であった．

婦人歯科医生誕80年記念会講演（昭49年4月19日）
Birth of a woman Dentist in Japan—on Miss Ko Takahashi—
* Kenshin IMADA

女史の人となり

昭和30（1955）年10月12日，熱海の大野屋で開催された「歯科女医誕生60年記念」のために配布をお願した「高橋コウ先生小伝」を土台にしながら回顧してゆく．

高橋コウ先生小伝

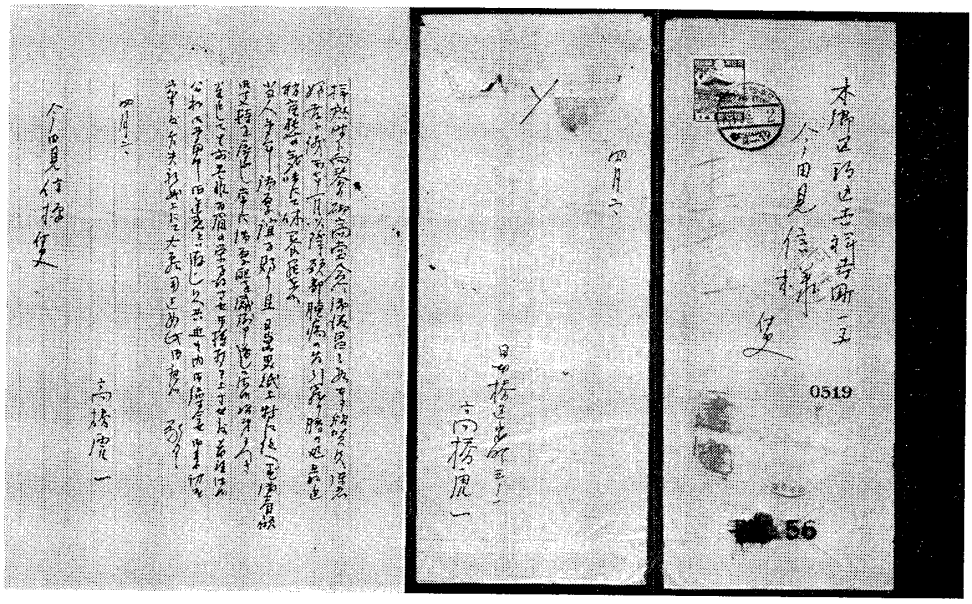
（歯科女医誕生60周年記念）

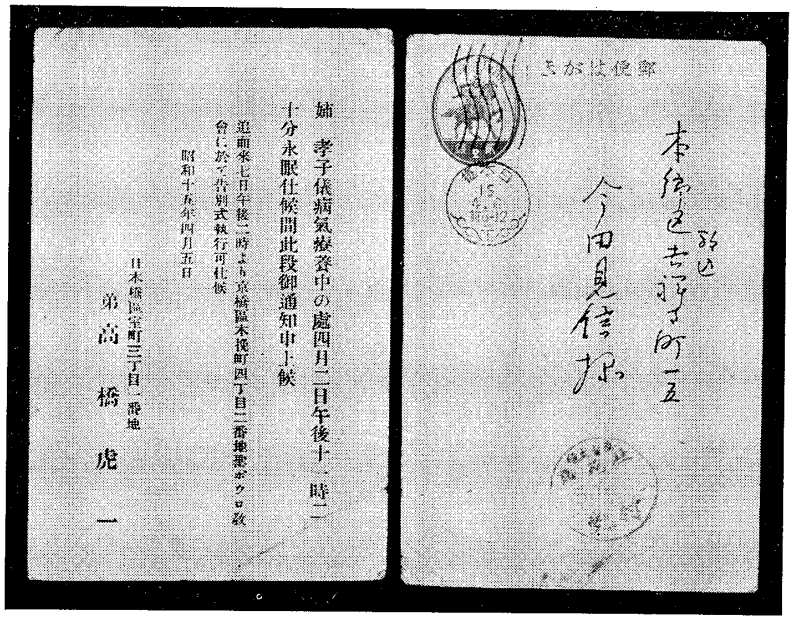
1．明治5（1872）年12月　東京市日本橋本町2丁目に生る．父は富士松，母はマツ子でコウはその長女である。

父富士松は嘉永元（1848）年7月8日日本橋に生れ，文久2（1861）年8月，15才の時から父業を継ぎ，明治8（1875）年小幡英之助の門に入り，2年通学して洋方歯科医術を修業したが，歯科医籍には上らず，入歯々抜口中療治で終生した．明治21（1888）年宮内省皇后職の命により参殿して以来，宮中高級女官の歯科診療を担当した．

2．明治12（1879）年，附近の小学校（門井小学校か）に入学，同16（1883）年に高等小学校に進んだり女学校或は私塾でも学んだと思われるが不詳である．

3．父富士松が中心となり神翁金斉，竹沢国三郎の協力によって明治21（1888）年8月9日浅草区須賀町井生村楼で発会式をあげた歯科矯和会（22年9月歯科講義会，更に又私立大日本歯科講義会と改称）は，日本橋





本町1丁目門井小学校，筒井小学校で毎水曜日夕方から小島原泰民，伊沢信平，菅沼友三郎等を講師として開かれたが，これにコウは通って歯科学の勉強をはじめた．

この明治21年，コウ17才の時に父につれられて伊沢信平を訪れ今後の歯科の勉学について指導を受けたといわれている（信平はその年10月渡米，同25年月帰朝）．

4. 明治22（1889）年には長谷川泰の済生学舎（明治9（1876）年創立同36（1903）年廃校）に入学した．そのとき吉岡弥生（東京），福井繁子（大阪）等10名位の女性と机を列べて医学を学んだ．そして水曜日の夜は歯科講義会にも通って歯科を学んだ．

5. コウは明治23（1890）年1月18日から授業を開始した高山医科医学院にも通学したようだが，在院期間は不詳である．この時の女性の仲間には伊藤タケ（東京）松井吉枝（大阪）があった．

6. 明治26（1893）年伊沢信平がその父道盛の後を継いで医術開業試験委員となった頃に，コウは伊沢歯科医院に通学，専ら歯科医術を研究した．

7. 明治27（1834）年5月　祖母「イク」死亡．

8. 明治27年5月　医術開業歯科試験を東京に受け合格した．この時にコウは23才であった．そして6月14日歯科医籍第235号に登録された．この年春の試験出願人は180名で合格者は16名である．コウは婦人歯科医の嚆矢である．同年秋の出願人は156名で合格者20名．伊藤タケ，松井吉枝がその年の秋合格した．

このときの試験委員は，伊沢信平，高山紀斉，益田広岱であった．合格者の5月24日官報公告では高橋コウのほか，荒木盛英，天野　貞，本山幸三郎，佐藤岩吉，堀貞次郎，森谷長谷治，爪生春太郎，五木田栄之助の9名で，あと7名の合格者は後日公告された．

9. 明治27（1894）年　コウは検定試験合格後日本橋区室町開業．

10. 明治30（1897）年1月9日父富士松は行年50才で病歿した．

11. 昭和10（1935）年10月3日　母マツ子死亡．

開業以来病弱な父と弟虎一を看とって結婚の機会もなく独身で父業を継いで来たが，昭和5（1926）年4月2日午後11時20分，69才で頸部腫瘍（肉腫か）のため療養中のところ遂に病歿した．

12. 同年4月7日午後2から京橋区木挽町4丁目2番地の聖ポウロ教会で告別式を執行．

13. 浅草福寿院に葬る．

考　察

以上でざっと高橋コウの生涯をながめたが，特に次の考察をつけ加えたい．

① 父富士松は（偉大な事業は歯科講義会を興したり，瑞穂屋から歯科器材の初輸入をした事だが別の機会にゆづる．）人物，手技ともに卓越していた上に向学心にもえていたに拘らず遂に歯科医師試験を受けることなく，寂しい生涯を送った，父の念願を達してくれたコウは，父の願望を一生涯貫いて生きた，病弱な父，老いたる祖母，病弱な弟を抱えて父業と闘った生涯はこの上なく立派という外はない．コウが試験に合格したときは一家あげての喜びであったことは特別に写したと思われる記念写真でも想像される．

② 結婚をしなかったことは家庭の事情でやむを得なかったと思われる．コウの性格は剛であり，弟虎一は比較的柔であったから，張りつめた日常には結婚の機会がなかったとしか思われない，キリスト教に傾いていったのも，この辺に原因があるのではあるまいか，後年「孝子」と通常呼んだのも，深い意味があるように思われる．

③ コウの勝気は自然に環境が造ったというべきではあるまいか，勝気でなくては，男子学生の中に混じって勉強したり，開業するなど女の身では耐え得なかった努力と思う．

④ 高山歯科医学院時代に幾人の女子が在学したかは不明であるが，済生学舎では15～6人だったということだ．

歯科講習会では恐らくコウ1人位だったに相違ない．その後身である日本歯科医学校の第1回卒業生（明治42年）中女子は9名（男子56名）だった，女医学生に比較して，まだまだ女子歯科学生は少なかったといえる．

⑤ 弟虎一はコウ死去後，昭和15年頃，疎開地（静岡県御殿場市荻原533）で長田ユキ（明治36年3月26日生）をめとり，長田好太郎の末子「英一」

を養子に迎えた，英一は御殿場で現在開業中である．虎一は死亡したが，年月不詳である．

⑥　コウの師伊沢信平の高弟で神戸で開業した門倉清広（昭和18年５月，没66才）の詩に曰く

辛酸修学自為名（辛酸学を修め自ら名をなす）
承継師心豪気横（師心を承継して豪気横たわる）
夙拓杏林期済世（夙に杏林を開いて済世を期し）
徳風颯爽抜群英（徳風颯爽として群英を抜く）

はコウの場合にも合致して興味ふかい．

⑦　またコウの合格した年の秋，試験に合格した伊藤タケは東大歯科の創草期に活躍した伊藤忠三郎の妻で，明治10年２月生れ，明治27年10月29日合格証付与，同年11月14日，登録番号252号，また松井吉枝は明治８年６月生れ，合格したときは満19才６カ月だった．登録月日は明治27年12月27日で，登録番号260号である．

⑧　松井吉枝は合格後は大阪に帰り，天満天神新門筋で開業，のち鳥居筋（地下町１）に移り，嗣子亀夫とともに診療に従事していたが，昭和12（1937）年11月，63才で歿したということだ．

墓の調べについて

昭和49（1974）年４月２日，全国婦人歯科医会の長老鈴木鶴子，日本歯科医史学会事務局の中上起一，両氏に同道願って浅草の福寿院を訪れた．高橋家一族は12軒もあるということだが，玆には４軒位の墓がほぼ一ケ所にまとまって建っていた，高橋弥右衛門らしい墓を中心に写真をとりながら調べた．しかしお寺の過去帳と合わない．

台石に「両国米沢町虎一屋藤右衛門」とある．墓石の前面に

蒼竜院南山道樹居士　寛政11未年12月14日
証相院定室妙禅大姉　天明４甲辰正月29日

とあって，左面に漸く判読出来るつぎの記載がある．

玄明珠光大姉　寛政12申年７月25日
栄林紹繁信士　文化11戌年９月初６日
繁堂妙栄信士　文政２巳卯年正月25日
全庵道機信士　天保14卯年８月初２日
安貞妙涼信士　安政３辰年８月23日
柳眼禅童女　嘉永５子年２月２日
花香童女　弘化４未年２月18日

左面は，写真撮影が距離の関係で不可能あるが次の記載があった．

虎一屋弥右衛門　割然院大安過悟居士
文久２戌８月６日
いく　高林院椿齢貞寿大姉
明治27年５月10日
高橋富士松　覚道院義宣隆然居士
明治30年１月19日
松子　覚松院義岳隆寿大姉
昭和10年10月３日

なお墓にはないがお寺の過去帳に「高橋久楽　久光院寿禅妙楽大姉　昭和５年１月18日」の記録があった，久楽は富士松の妹だとのことである．

外に富士松の墓と同じ家紋が刻まれている墓がある，台石には単に「高橋」とだけ書かれている．

前面に次の記載があって右面に「高橋勝次郎と刻んである．

冬雲孩子　明治３午年10月初２日
花容妙艶大姉　明治14年４月21日
就法童子　明治16年４月初３日

また以上の裏側に「高橋家之墓」と表記した「高橋新次郎」の墓があった．

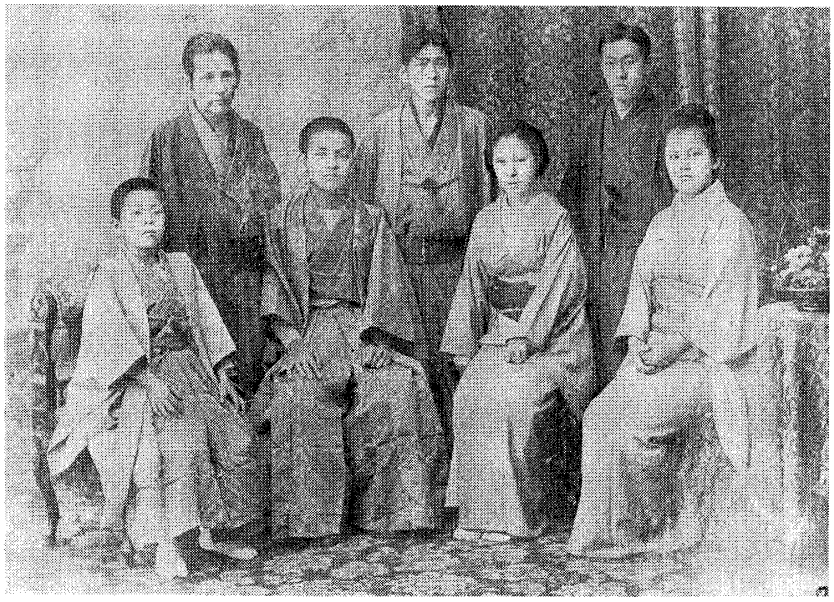
高橋弥右衛門が同家の口中科（入歯々抜）の祖であることは間違ないが，菓子商の祖は不明である，藤右衛門は，遺族の見解では元祖ではないという．

藤右衛門と弥右衛門との間に１代とんでいるように思われるが，氏名年代は焼失後手入れしたものらしく不明である．

主な参考文献

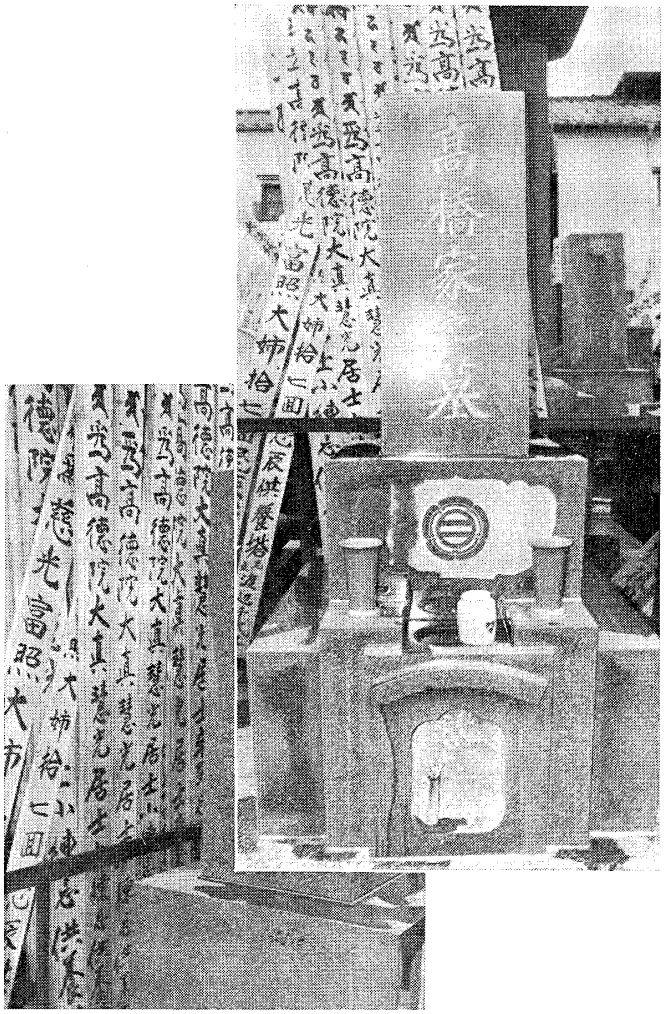
1）日本歯科医事衛生史前巻，201～203 p．昭和15年10月．
2）東京都歯科医師会70年史，昭和43年３月．
3）開国歯科医人伝 168～170 p，昭和48年９月．
4）日本橋歯科医師会沿革史 54～55 p．昭和50年１月．

コウ女史試験合格記念その１（従業員とともに）



その２（家族とともに）
前列向って右端コウ，母マツ，弟虎一
後列左端父富士松

福寿院全景（墓地は向側にある）たてる婦人は鈴木鶴子



高橋家墓の前面